事後評価報告書

1.　基本情報

（1）実行団体名：特定非営利活動法人豊見城市体育協会
（2）実行団体事業名：豊見城市の子ども派遣事業
（3）資金分配団体名：公益財団法人みらいファンド沖縄
（4）資金分配団体事業名：沖縄・離島の子ども派遣基金事業
（5）事業の種類：草の根活動支援事業
（6）実施期間：2020 年 4 月～2023 年 3 月
（7）事業対象地域：沖縄県豊見城市

2.　事業概要

現在、豊見城市の行政補助にて対象の小中学校の児童生徒の派遣について対応しているところでありますが、行政補助では賄えていない経費もあり、それにより派遣を躊躇する子ども・家庭もあり、経済的な理由により困惑する世帯もある。

そこで、行政補助の対象外経費で申請者により需要のある以下の経費を補助することで、児童生徒の体験の質の確保・経験の不均衡解消を図り、家計負担を軽減し、楽しくスポーツに接する環境づくりを行う。
①引率・帯同者（指導者・保護者）の旅費。
②登録外選手の旅費。
③行政の派遣補助限度回数に達した登録選手の旅費。
④遠征先での交通費（レンタカー）。
また、協力団体である行政（教育委員会）と連携し、より多くの対象者に補助事業の利用を図り、対象者の申請漏れ防止を目的に周知を行う。

3.　事後評価実施概要

（1）実施概要

①どんな変化をこの事業の重要なポイントとして設定し評価を実施したのか

旅費補助を受けたことで当事者（指導者・保護者）が派遣旅費負担の課題について認識し、その後どのような意識・行動の変化があったのか、そして基金への参画に繋がったかを図った。

②どんな調査で測定したのか

短期アウトカム【共通】2-1、2-2 の評価
1）調査方法
アンケート調査　※派遣大会後に実施
2-1　基金を利用しましたか。
「はい・いいえ」選択回答。

2-2　派遣旅費負担の課題認識後、あなたの行動の変化を教えてください。
「①本補助事業を積極的に活用した、②知人等へ本補助事業の案内を促す行動をした、③①と②両方した、④なにもしていない」を選択回答。
2）調査実施時期
2-1　2022 年 4 月～2023 年 2 月
2-2　2020 年 11 月～2023 年 2 月
3）調査対象
2-1　2022 年度の当事者（指導者・保護者）183 名（指導者 19 名、保護者 164 名）が回答。
2-2　当事者（指導者・保護者）249 名（指導者 40 名、保護者 209 名）のうち 247 名（指導者 40 名、保護者 207 名）が回答。（回答率 98%）
　③調査結果をどのように深堀し価値判断をしたのか
2-1　基金の利用率・はい 5 件（3%）・いいえ 178 件（97%）
　基金の利用が低かった理由は、「基金の内容・利用方法などがよくわからない」82 件(45%)、「派遣大会まで時間が無い・足りない」42 件(23%)、「利用しずらい」23 件(13%)が上位を占めた。
「チーム内で基金や税金の説明をすることが難しい」の声もあり、「利用しずらい」の詳細理由としては、「個人競技だと寄附の声掛けが難しい。勝敗によって派遣期間が変わるから、合同チームだと難しい。」だった。
2-2　①本補助事業を積極的に活用した 137 件（55%）、②知人等へ本補助事業の案内を促す行動をした 24 件（10%）、③①と②両方した 77 件（31%）、④なにもしていない 7 件（3%）、未回答 4 件（2%）
（2）実施体制
・内部　豊見城市体育協会（スポーツ少年団担当）　富永健太
・内部　本事業従事者　沖山亜紀子

4.　事業の実績

4-1 インプット
（1）人材：3 名（事務局長 1 名、職員 1 名、事業従事者 1 名）
（2）資機材：無し
（3）経費実績　助成金の合計（円）
　①契約当初の計画金額：21,010,000 円
　②実際に投入した金額：19,959,241 円
（4）自己資金（円）
　①契約当初の自己資金の計画金額：1,500,000 円
　②実際に投入した自己資金の金額と種類：266,000 円
　③資金調達で工夫した点：保護者説明会を行ったことで基金利用の同意を得ることができました。

4-2 活動とアウトプットの実績

（1）主な活動

豊見城市内で活動する児童生徒及びその関係者（指導者・保護者）へ県外等派遣に掛かる旅費の一部補助と当事者へのアンケート調査、派遣大会時の写真提供を依頼。

本協会では県外等派遣大会に行く児童生徒の情報を得ることが困難なため、行政の派遣補助担当者へ本事業の案内チラシ配布と派遣大会等の情報共有を行い、また豊見城市内の各小学校・中学校へ通知文配布や豊見城市スポーツ少年団登録団体へ本事業の案内・基金紹介チラシの配布も行った。

アウトプットの実績

【アウトプットに関する記載事項】

①アウトプット	②指標	③初期値	④目標値	⑤目標達成時期	⑥実績値
【共通】 1-1 派遣費を必要としている豊見城市内で活動する小中学生の個人、団体及びその関係者に対して、派遣費を出すことができている。	子ども・保護者・指導者別に、補助件数・大会数を出す。	（子ども） 補助件数／23 名 （※行政補助の過去 6 年間で補助限度回数 2 回に達した児童生徒数の平均人数） 大会数／23 件 （保護者・指導者） 補助件数／年間 60 名 大会数／60 件	年間目標として以下の通りとし、この目標を 3 ヵ年で達成する。 （子ども） 補助件数／年間 23 名（※行政補助過去 6 年間で補助限度回数 2 回に達した児童生徒の平均人数） 大会数／23 件 （保護者・指導者） 補助件数／年間 60 名 大会数／60 件	2022 年度中	子ども、保護者・指導者への補助件数は達成できた。 3 ヵ年合計 ・子ども 補助人数／31 名 （内、登録選手 25 名、登録外選手 6 名）20 年度 3 名、21 年度 16 名、22 年度 12 名 大会数／24 件 ・保護者と指導者 補助人数／249 名 （内、保護者 209 名、指導者 40 名） 20 年度 15 名、21 年度 51 名、22 年度 183 名 大会数／134 件

					※子ども、保護者、指導者の大会件数は、同時申請もあるため重複有。
1-2 同上	派遣補助した子ども、保護者、指導者を対象に家計負担が軽減されたかアンケートをとる。 またアンケートにより行政補助の対象外経費の負担を可視化する、保護者等が帯同したことで子ども、保護者等に心情の変化をはかる。 Q 派遣費補助があったことで、家計負担は減りましたか。「減りました」「変わらない」 ※特に団体競技で補助申請を提出したチームへのチーム内の家計負担を注視する。	指標で示した調査により、派遣費補助前の状態を確認し、初期状態として設定する。	派遣費の補助があったことで家計負担は「減った」と答える割合が 100%。	2022 年度中	ほぼ目標値を達成できた。 ・減った 238 件(96%) ・変わらない 7 件(3%) ・未回答 2 件
【共通】 2-1 子どもの移動に関する課題が地域社会に発信、課題を周知でき	年一回、円卓会議を実施。適切なステークホルダーを招集できている。	0 件/ステークホルダーが可視化されていない状態	15 人 5 人着席者/1 回/年×3 年 適切なステークホルダーの参画を促す	2022 年度中	3 ヵ年合計 24 名が参加し、目標達成できた。 2020 年 10 月 23 日・11 月 6 日開催

ている状態。 各ステークホルダーに共有されている状態。					着席者数 9 名 2021 年 11 月 29 日開催 着席者数 8 名 2022 年 9 月 16 日開催 着席者数 7 名
2-2 同上	基金の紹介チラシを各部活動の理事に、各チームの指導者・保護者に配布し、基金について知ってもらう。 行政派遣補助担当者が、行政窓口にきた当事者へ当補助事業の案内を行ってもらう。	チラシ配布数 50 枚 〈配布先予定〉 ・各部活動の理事 29 チーム ・行政の派遣担当者 2 名 (小学校 8 校、中学校 3 校) ・体協窓口 8 枚	初期値から増加	2022 年度中	トータル 150 部程配布し、目標達成できた。 補助金申請問い合わせ時に窓口にて配布 (個人・団体)。また豊見城市スポーツ少年団加盟 35 チームに配布。

4-3 外部との連携の実績

豊見城市内で活動する児童生徒の県外等派遣大会の情報を得ることが難しいため、行政担当者に本事業の案内チラシ配布・派遣大会等の情報共有、そして豊見城市内の各小学校・中学校に通知文を配布したことで、部活動の顧問の先生や事務の方から直接問い合わせもあり、対象者の漏れ防止をすることができました。

5. アウトカムの分析

5-1 アウトカムの達成度

(1) 短期アウトカムの計画と実績

【短期アウトカムに関する記載事項】

①短期アウトカム	②指標	③初期値	④目標値	⑤目標達成時期	⑥アウトカム発現状況(実績)
【共通】 1-1. 豊見城市内で	当事者(子ども、指導者、保護者)が派	初年度の派遣費補助大	最終年度（2022 年度）の派遣大	2022 年度中	初期値：初年度の派遣費補助大会の自己負

活動する小中学生の個人、団体及びその関係者に対して、負担軽減があり、派遣費が原因で部活動に参加しない子どもが減り、部活動に安心して参加できる子どもの数を増やす。	遣大会で実際に掛かった全体の費用と自己負担分(自己負担額・自己負担率)をアンケートではかる。	会の自己負担率を初期値として設定(派遣費補助なしの場合の自己負担率)	会における派遣費用の自己負担率が50%減。		担率(派遣費補助なしの場合の自己負担率): 100% 派遣費補助後の自己負担率 2020年度62% 2021年度64% 2022年度45% ※2020年度～2021年度の2年間は、補助額5割、2022年度は補助額を8割と変更したことで目標値である50%を切るかたちとなった。
1-2同上	当事者(子ども、指導者、保護者)の家計負担に与える影響を考え、派遣費補助についてアンケートではかる。 Q 派遣費補助の現状満足について教えてください。 「満足している」 「満足していない」。	初期値は、2021年度にアンケートを実施し設定する。	継続的にアンケートを行い、2020年度と2021年度と2022年度との数値を比較し、10%改善できている。 ・安心して派遣大会に参加できる子どもを増やす。 ・県外派遣の自己負担金が原因で県外派遣を諦めている子どもの数や事例を抽出し、発信できる状態にする。	2022 年度中	目標達成できなかった。 数値は横ばいとなり、県外派遣の自己負担金が原因で県外派遣を諦めている子どもの数の抽出は難しいため見送った。 ・2020年度(回答人数15名) 満足している 13名(86.6%) 満足していない 2名(13.3%) ・2021年度(回答人数51名) 満足している 44名

					(86.2%) 満足していない 7 名 (13.7%) ・2022 年度(回答人数 183 名) 満足している 155 名 (84.6%) 満足していない 28 名 (15.3%) ・選手のアンケートでは、「保護者・指導者がいることで安心して大会に参加することができた」と回答があった。 ・県外派遣の自己負担金が原因で県外派遣を諦めている子どもの数を抽出することは困難であった。
【共通】 2-1 子どもの移動に関する課題が各ステークホルダーに認識されている状態。	子どもの移動負担軽減のために、基金を活用して地域の支援者(県内)とマッチングをしている	実行団体の初期状態として、既存にある支援メニュー(行政補助、競技団体補助)を支援者につなげている状態 基金の利用率としては、０％ 補足メモ：	実行団体を通じて、子どもの移動に関して行政や企業等と課題共有し、地域で派遣費用を支える仕組みのトライアルができている状態 基金の利用目標件数 2 件	2022 年度中	2 件の基金を設置でき、目標達成する事ができた。 ・2022 年度(回答人数 183 名) 基金利用率 3% (補助人数 164 名中、5 名基金利用)

		『基金の利用率』とは休眠で補助していた分のうち、基金からの補助の割合			
2-2 同上	【ステークホルダー】 当事者(指導者、保護者)が派遣旅費負担の課題を認識し、本基金・補助事業を積極的に活用、または活用を促す等の行動を起こしているかアンケートではかる。 Q 派遣旅費負担の課題認識後、あなたの行動の変化を教えてください。 「基金・本補助事業を積極的に活用した」、「知人等へ基金・本補助事業を促す行動をした」、「何もしていない」。	初期値は、2021 年度にアンケートを実施し設定する	2022 年度に再度アンケートを取り、2021 年度と比較し、アンケート項目の数値が 10％改善できている。	2022 年度中	各ステークホルダーに子どもの移動に関する課題を認識させることができたが、「④何もしていない」を選択件数が 2021 年度の 1 件から 2022 年度は6件と増加する結果となった。 ・2021 年度 ①本補助事業を積極的に活用した 20 名(39%) ②知人等へ補助事業を促す行動をした 10 名(20%) ③①と②をした 16 名(31%) ④何もしていない1名(2%) ⑤未回答 4 名(8%) ・2022 年度 ①本補助事業を積極的に活用した 113 名(61.7%) ②知人等へ補助事業を促す行動をした 14 名(7.6%) ③①と②をした 50 名

					(27.3%) ④何もしていない6名 (3.2%) ⑤未回答 0 名

⑦事前評価時の短期アウトカム　(20200907 提出時点)

短期アウトカム	指標	初期値	目標値
【共通】 2-1 子どもの移動に関する課題が各ステークホルダーに認識されている状態。	【社会】 行政、指導者、保護者等のステークホルダーの当該課題に対する課題感及び関与度の変化を、円卓会議の場において明らかにする（年一回実施予定・議事録ではかる)。	初年度の円卓会議議事録より設定（定性的)	定性的な変化（ステークホルダーが当該課題を社会的な課題として認識している状態。それぞれの立場で、より具体的な解決策に着手している状態)。

(2) アウトカム達成度についての評価

2020 年度から 2022 年度の 3 ヵ年で 280 名（大人 249 名、児童生徒 31 名）に派遣旅費補助を行ったことで、派遣旅費負担の課題への意識・行動の変化を促すことが概ね達成ができたと感じます。

「旅費補助を受けたことで、離島県である沖縄県は県外等派遣大会にかかる旅費は仕方がなく諦めていたが、そうではないという気づきになった」という保護者の回答もあり、ただ補助を受けるだけではなく、一人でも多くの方が県外等派遣の旅費課題を認識するきっかけづくりとなったことを実感しました。

そして、県外等派遣大会に指導者・保護者が派遣大会に一緒に行くことで、指導者からは「保護者が帯同することで選手の不安面を取り除き、またサポートに回ってもらうことで試合に集中ができ、良い結果に繋がった」、選手からは「試合で追い込まれた時、監督の優しい言葉やアドバイスがあり嬉しかった。保護者の応援に励まされ頑張ることができた」など、多くの声が届きました。

この事業を通して、子どもたちだけでは大会に出場することは難しく、荷物の運搬や買い出し、選手のケアなど、帯同者が必要な場面が多種多様に存在すること、また帯同者の数が子どもたちの体験の質に関わってくることを改めて認識し、帯同者の重要性を確認できました。

5-2 波及効果（想定外、波及的・副次的効果)

本事業がこれまで取り組んでいた帯同者（指導者・保護者）への旅費補助について、2023 年度から指導者の旅費補助を行政が実施することになった。

派遣旅費負担の課題は概ね共有されているが、基金を開始した 2022 年度の基金への参画は僅か 3%とい

う結果となりました。

基金の利用が低かった理由は、「基金の内容・利用方法などがよくわからない」82 件(45%)、「派遣大会まで時間が無い・足りない」42 件(23%)、「利用しずらい」23 件(13%)が上位を占めた。

「チーム内で基金や税金の説明をすることが難しい」の声もあり、「利用しずらい」の詳細理由としては、「個人競技だと寄附の声掛けが難しい。勝敗によって派遣期間が変わるから、合同チームだと難しい。」だった。

しかし一部保護者からは、「派遣大会前に各家庭の旅費負担を減らすことができるなら、ぜひ使ってみたい」という声もあった。(補足として、行政への選手旅費補助申請時の支払い方法を「精算払い」で選択している方が多いので、派遣大会の前後数カ月間は各個人の家計負担となっている)。

5-3 事業の効率化

2020 年度の当初、派遣旅費補助の支払い方法が「概算払い（旅行社等へ支払い)」のみでしたが、当事者から「概算払いの（申請・実績）手続きが難しい」と声があったため、資金分配団体の協力のもと精算払いが対応可能となり、年度途中から補助対象者の漏れ防止に繋がりました。

申請手続きを簡素化したことで、行政補助との書類区別ができ、また提出書類も少なくなったことで、本事業従事者の確認業務を減らせ、確認・手続きに時間が掛からなくなりました。

6. 成功要因・課題

・事業で達成した成果

アウトカム達成度についての評価に記載していますが、「旅費補助を受けたことで、離島県である沖縄県は県外等派遣大会にかかる旅費は仕方がなく諦めていたが、そうではないという気づきになった」という保護者の回答にもあるように、これまでの「仕方がない」と諦めていたことが本補助事業を利用したことで、認識の変化起こすきっかけづくりができました。各ステークホルダーに対し、派遣旅費負担の課題への意識・行動の変化を促すことが概ね達成できたと思います。

・達成が困難だったアウトカム

波及効果の記載同様。

「県大会から県外派遣大会出発までの準備期間にそれぞれ異なる（遅いところでは派遣大会出発の 10 日前申請などもある)。個人もしくは団体競技の代表者が行政の窓口、当協会の窓口に補助金申請の問い合わせ・申請書提出が提出期限ギリギリの場合が多く、基金を利用する期間不足などで活用することが難しい現状である。」(2022 年度進捗報告書（事業で直面している課題）から抜粋)

7. その他深堀検証項目（任意）

補助派遣大会に子ども達だけ行くことは難しく、指導者・保護者が必要な場面（大型荷物類の運搬、氷や水等の買い出し、選手の熱中症対策、選手が怪我した際の対応等）が多種多様とあり、また帯同者が少ないと子ども達の体験保障の質にまで関わってくるということを改めて帯同者への重要性・必要性を確認

できることができました。
　指導者・保護者を対象に行った追加調査（帯同者への助成に関する調査）結果では、
「大人がいないと派遣に行けない（必須）、大人がいると現地での移動や洗濯など派遣に不安感がある（質の担保）を 95%以上を占める結果となった」P10
「どの年齢においても、児童・生徒のみで派遣大会に送り出せない、児童生徒のみでも行けるが不安があると回答が約 9 割以上となった。」「特に小学校 1・2 年生、3・4 年生においては、一人で行けると回答者はいなかった。」P14
「子どもだけで難しい事柄として、特に車移動、体調不良等への対応、大会参加に必要と言える大会手続きには 90%以上の「帯同者が必須」と回答している」P11
「帯同者がいることで追加的に得られる効能としては、精神面の安定が挙げられた」P18
（帯同者への助成に関する調査から抜粋）

　行政の補助対象ではない登録外選手 3 名（2022 年度）に旅費補助を行いました。登録外選手が派遣大会に行くことで、「登録選手を含めて子どもの変化や成長は明確であり、派遣大会に連れて行く意義は大きい。また、チームとしての経験を持つことができる。」（第 3 弾部活動派遣費問題を考える地域円卓会議 in 豊見城　実施報告書 P5 から抜粋）
（補足：2020 年度・2021 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により派遣大会の中止・延期が相次ぎ、大会開催があっても会場に入れる人数制限が設けられていたため登録外選手の補助ができなかった。）

8. 結論

8-1 事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
(1)事業実施プロセス			○		
(2)事業成果の達成度			○		

（1）、（2）それぞれ 1 箇所を選択する。

8-2 事業実施の妥当性
　豊見城市内の指導者・保護者から「子ども達への補助があるが、登録外選手や指導者、保護者にも補助ができないか」という声を受け、行政補助の対象外経費（引率・帯同者の旅費）を補助したことでチーム内の家計負担を軽減することができ、また派遣大会期間中による児童生徒の体験の質を確保し、楽しくスポーツに接する環境づくりを行うことができたため妥当と言える。

しかし基金の利用については、「基金の内容・利用方法などがよくわからない」82 件(45%)、「派遣大会まで時間が無い・足りない」42 件(23%)、「利用しずらい」23 件(13%)が上位を占めることから、基金の内容や利用方法など当事者同士が基金について説明しやすいパンフレット、県内大会から派遣大会まで準備期間が短い場合の対応などが必要だと感じた。

9. 提言

基金の利用について、上記のとおりです。

10. 知見・教訓

・行政の補助対象外経費であるレンタカー利用料金の補助行ったが、当事者の状況（団体・個人競技の違い、乗車人数、荷物・道具類の量など）によって予約する車種が異なり個々で料金に差が出た。また、団体競技で同チームの帯同者が複数名いる場合、レンタカーの利用台数制限なども設けていなかったため、当事者がそれぞれレンタカーを利用こと自体となった。
団体競技の場合は複数台のレンタカーが必要だと感じるが、個々で利用することで補助対象外経費（ガソリン代、駐車料金、高速道路料金）も個々の負担も増えるため、利用台数制限を設けることで個人の家計負担を抑えることにも繋がると考察する。
・基金の利用をしやすくするための資料（基金の説明や利用時の動き・お金の流れなど）が当事者からの声もあった。

11. 資料（別紙）

・事業の様子がわかる写真資料
・アンケート結果
・実際に使用したアンケート用紙（指導者・保護者用、児童生徒用）
・帯同者への助成に関する調査

事業の様子がわかる写真

事業の様子がわかる写真

■補助人数

	2020年度	2021年度	2022年度	**計**
指導者	5	16	19	**40**
保護者	10	35	164	**209**
計	**15**	**51**	**183**	**249**
選手	3	16	6	**25**
登録外選手	0	0	6	**6**
計	**3**	**16**	**12**	**31**
合計	**18**	**67**	**195**	**280**

■基金を利用しましたか。※2022年度のみ実施、指導者・保護者183名が回答。

	2022年度	**利用率**
利用した	5	**3%**
利用していない	178	**97%**
計	183	

※姉妹都市交流事業で利用（参加した野球2チーム）

■基金を利用しなかった理由　※2022年度のみ実施、指導者・保護者183名が回答。

※アンケート記述を基に理由を分類	回答数	回答率
利用しずらい	23	13%
内容・利用方法等がよくわからない	82	45%
保護者会で同意が得られなかった	2	1%
派遣大会まで時間なかった	42	23%
精算払いを希望した	1	1%
利用したかったが、申請期限を過ぎていたため利用できなかった	1	1%
記載なし	32	17%
計	183	

■家計負担は減りましたか。※指導者・保護者のみ回答。2021年度は追加調査で実施。保護者2名回答無し。

年度別	2020年度		2021年度		2022年度		**合計**	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
減った	13	87%	46	94%	179	98%	**238**	**96%**
変わらない	0	0%	3	6%	4	2%	**7**	**3%**
未回答	2	13%	0	0%	0	0%	**2**	**1%**
計	15		49		183		**247**	

■年度別個人負担額

	全体旅費額	全体旅費額の平均額	自己負担額	自己負担率	自己負担額の平均額	補助人数
指導者・保護者	¥818,046	¥54,536	¥504,719	62%	¥33,648	15名
選手・登録外選手	¥96,150	¥32,050	¥61,075	64%	¥20,358	3名
2020年度　計	**¥914,196**	**¥50,789**	**¥565,794**	**62%**	**¥31,433**	**18名**
指導者・保護者	¥4,783,536	¥93,795	¥3,073,154	64%	¥60,258	51名
選手・登録外選手	¥394,714	¥24,670	¥241,503	61%	¥15,094	16名
2021年度　計	**¥5,178,250**	**¥77,287**	**¥3,314,657**	**64%**	**¥49,472**	**67名**
指導者・保護者	¥15,539,415	¥84,915	¥7,118,516	46%	¥38,899	183名
選手・登録外選手	¥615,128	¥51,261	¥207,349	34%	¥17,279	12名
2022年度　計	**¥16,154,543**	**¥82,844**	**¥7,325,865**	**45%**	**¥37,569**	**195名**
3ヵ年合計	**¥22,246,989**	**¥79,454**	**¥11,206,316**	**50%**	**¥40,023**	**280名**

■補助額で満足していますか。※指導者・保護者のみ回答。

	2020年度	2021年度	2022年度	計
満足している	13	44	155	**212**
満足していない	2	7	28	**37**
計	**15**	**51**	**183**	**249**

■派遣旅費負担の課題認識したうえで、本事業を積極的に活用、または活用を促す等の行動を起こしたか教えてください。

	2020年度	2021年度	2022年度	計	3ヵ年回答率
①本補助事業を積極的に活用した	4	20	113	137	**55%**
②知人等へ補助事業を促す行動をした	0	10	14	24	**10%**
③①と②をした	11	16	50	77	**31%**
④何もしていない	0	1	6	7	**3%**
⑤未回答	0	4	0	4	**2%**
計	15	51	183	249	

■派遣旅費負担の課題認識したうえで、本事業を積極的に活用、または活用を促す等の行動を起こしたか教えてください。※指導者・保護者別

	補助対象区分	2020年度	2020年度	2020年度	計	3ヵ年回答率
①本補助事業を積極的に活用した	指導者	1	6	9	16	**40%**
	保護者	3	14	104	121	**58%**
②知人等へ補助事業を促す行動をした	指導者	0	4	3	7	**18%**
	保護者	0	6	11	17	**8%**
③①と②をした	指導者	4	3	5	12	**30%**
	保護者	7	13	45	65	**31%**
④何もしていない	指導者	0	1	2	3	**8%**
	保護者	0	0	4	4	**2%**
⑤未回答	指導者	0	2	0	2	**5%**
	保護者	0	2	0	2	**1%**
計	**指導者**	**5**	**16**	**19**	**40**	
	保護者	**10**	**35**	**164**	**209**	
	合計	**15**	**51**	**183**	**249**	

大会派遣後のアンケート調査【指導者・保護者用】

指導者・保護者[氏名　　]

皆様のアンケート回答を基に、今後の沖縄県の派遣費(旅費)の在り方を考えたうえで当該調査へのご協力をお願いいたします。

① 「今回の派遣大会に掛かる旅費」に対し、当補助事業が勧めている基金を利用しましたか。
[　利用した　・　利用していない　]
「利用していない」を選択した方は理由をお聞かせください。※申請時に基金の説明・チラシ配布済み。

② 受ける補助額で満足していますか。[　満足している　・　満足していない　]
「満足していない」を選択した方は理由をお聞かせください。

③ 旅費補助があったことで、家計負担は減りましたか。[　減った　・　変わらない　]
「変わらない」を選択した方は理由をお聞かせください。

④ 旅費コストを下げるために、工夫した点等ありましたら教えてください。

⑤ 派遣期間中に補助対象経費(航空運賃、宿泊費、移動費)以外に、**使った経費**と**金額**を教えてください。例：添乗員経費〇〇円、県代表ユニフォーム〇〇円など

⑥ 過去・現在を含め、金銭的な理由で派遣を諦めた選手はいましたか。
[（過去・今大会)いました　　名)　・　いません　・　話を聞いたことがある]

⑦ 派遣旅費負担の課題認識したうえで、当補助事業を積極的に活用、または活用を促す行動を起こしたか教えてください。※複数選択可。**※裏面、補足説明をご覧いただきご回答ください。**
[補助事業を積極的に活用した・知人等へ補助事業を促す行動をした・課題を認識していない]

⑧ 「県外等派遣大会で帯同者の重要・必要性」をご自身の立場(指導者・保護者側)で感じた事などを詳しくご記入ください。**※裏面、補足説明をご覧いただきご回答ください。**

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。豊見城市体育協会 2022/10/01

設問⑦の補足説明

派遣旅費負担の課題とは、「離島県である沖縄は他県と比べ派遣旅費負担が大きく、大会参加を諦める子ども・家庭がいる現状があります。派遣大会を諦めたことによって子ども達が得られるはずだったさまざまな「体験」の機会を失うことに繋がり、子どもの学びの機会に不平等が生じている。」ことを指します。

設問⑧の補足説明

※複数名の補助申請を出しているチームは、**「帯同者が複数名いることでできたこと」**を詳しくご記入ください。

［回答例］

現地では、保護者は 3 班に分かれ、1 班は練習会場で子ども達の練習サポート、テント・大型扇風機の借用・設置等を行い、2 班は氷等の買い出し、3 班は宿泊先へ行き、チェックインとチーム全員の荷物を運搬と、それぞれが子ども達のサポートをする事ができた。

また怪我等をした選手がでた場合、〇名の帯同者がいると対応もしやすかった。

大会派遣後のアンケート調査【児童生徒用】

小・中学校

名前

① 大会派遣に行って、技術面に関する課題は見つかりましたか。
はい　・　いいえ

② 県外大会を見て、あいさつ・競技に臨む前の姿勢等を学ぶものがありましたか。
はい　・　いいえ

③ 今回の大会派遣に行くことができ、自己成長に繋がりましたか。
はい　・　いいえ

④ 保護者（指導者）等が大会に帯同することで、どのような支え（モチベーション・メンタル面など）になりましたか。

⑤ 感想　※質問①～③を踏まえて、お書きください。

大会派遣後のアンケート調査【登録外選手用】

小・中学校

名前

① 大会期間中、どういったことをサポートすることができましたか。

② 県外大会に行ったことで、どのようなことを学ぶことができましたか。

③ 感想　※①②を踏まえて、お書きください。

公益財団法人　みらいファンド沖縄・豊見城市体育協会御中

報告書

帯同者への助成に関する調査

2022年2月9日

一般社団法人CoAr（コア）

資料構成

1. 調査目的
2. 調査概要
3. 調査結果
    1. 子どもたちのストーリー
    2. アンケート実施・分析

© 2023 CoAr

1. 調査目的

2023年度以降、
大会基金等の助成がより柔軟に帯同者等へも行えるようにするため、
「**帯同者への助成」に寄付者が納得できるようなデータ・資料の作成を行う**こと

⇒JANPIA事業の事後評価への掲載・添付

⇒今後の基金運営において、帯同者への助成や寄付金募集の際に活用

© 2023 CoAr

2. 調査概要

以下二つの調査を実施、A.帯同が必須か、B.質の担保のために重要か、C.質の向上のために重要かの声を分類、分析した

1. ペルソナストーリーの作成
2. アンケートの実施・分析（二種類のアンケート）

<u>調査・分析を行ったこと</u>

A. 必須 帯同なしでは行けない、 できないこと
B. 質の担保 帯同なしでも行ける・できる だろうが、不安がある
C. 質の向上 帯同なしでも行けるが、 あるとより質が高まること

×

- 競技の種類
- 年齢（小学校低中高学年、中学校）
- 特に困難を伴う項目
- 登録外選手の有無　　等

© 2023 CoAr

3. 調査結果
3－1.子どもたちのストーリー

4つの子どもたちのストーリーをまとめると以下のような点において、帯同者の必要性、重要性が浮かび上がった

A. 必須 帯同なしでは行けない、できない	• 急な発熱や怪我、体調不良への対応 • レンタカーでの移動 • 大会会場における登録などのやるべきこと
B. 質の担保 帯同なしでも行ける・できるだろうが、不安があること	• 長距離バスでの移動 • 飛行機のチェックイン、移動 • 時間や移動に関する管理 • 買い出し • 食事や飲み物の準備 • ホテルのチェックイン
C. 質の向上 帯同なしでも行けるが、あるとより質が高まること	• 洗濯 • 大会中、帯同に来られなかった保護者への共有 • 応援

© 2023 CoAr

3. 調査結果
3－1.子どもたちのストーリー

中学生、サッカーの一例

日程	選手の動き	帯同者の役割	選手の気持ち
大会前日 6/24 ※寒い時期の大会は、大会2・3日前に出発し体を寒さに慣らす必要もある	那覇空港集合　結団式、道具・荷物類預け、搭乗手続き	・選手の体調確認	「何かあれば気にしないで頼るように」と言ってくれたので、安心感があった
	福岡空港　到着	・保護者で予約したレンタカー借用手続き、選手の宿泊先まで運転	
	昼食　※貸切バスで移動		
	ホテル(佐賀県)到着	・選手の部屋割り案内	
	練習	・大会期間中のお弁当発注、飲み物等の買い出し(レンタカーで移動) ・クーラーボックス、水筒、アイシング等の準備 ・練習時の帯同(急な対応に備えて待機)	飲み物等を冷やして準備をしてくれているので、すぐに練習に入ることができてよかった。
	※貸切バスで移動、ホテル到着		
	お風呂、夕食、MTG、自由時間	・選手の練習着、洗濯物を回収後、コインランドリーで洗濯乾燥	・みんなの練習着を洗濯してくれるので、体を休めて明日に備えることができた。
	就寝		
大会当日 6/25～6/26	朝食	・前日の洗濯物を選手に配布	
	ホテル出発　※貸切バスで移動	・クーラーボックス、アイシング、水筒等準備	・試合の事だけに集中できるので助かった。
	ウォーミングアップ		
	試合	・チーム旗設置 ・応援、写真撮影、動画撮影、帯同ができなかった保護者へ動画・試合状況の配信 ・選手の熱中症対策、お弁当の受取、配布、不足分の買い出し ・試合中に怪我人が出た場合は処置、もしくは病院へ付き添い	・県外のチームは応援の人がたくさんいて圧倒されたが、自分たちの応援席にも保護者が何人かいて心強かった
	試合後、着替え・身の回り片付け		
	試合の振り返りMTG、昼食		
	練習	・クーラーボックス、アイシング、水筒等準備 ・練習中に怪我人が出た場合は処置、もしくは病院へ付き添い	・救急病院を探して連れて行ってくれて、手続きなど全部をやってくれて助かった
	※貸切バスで移動、ホテル到着		
	お風呂、夕食、MTG、自由時間	・選手のユニフォーム、練習着、洗濯物を回収後、コインランドリーで洗濯乾燥	・ユニフォーム、練習着等の洗濯物がたくさんあったが、洗濯を引き受けてくれたので、ゆっくり体を休めることができて助かった
	就寝		
帰沖 6/26 ※夏場、帰沖当日は、試合後一旦ホテルに戻りお風呂に入ってから帰れるよう交渉し手配しているが、宿舎の都合によってはそれができず他を探さなければならないことがある	朝食	・選手の体調確認、前日の洗濯物を選手に配布	
	ホテル(佐賀県)出発 ※貸切バスで移動	・チェックアウト手続き ・クーラーボックス、アイシング、水筒等準備	
	ウォーミングアップ		
	試合	・チーム旗設置 ・応援、写真撮影、動画撮影、帯同ができなかった保護者へ動画・試合状況の配信 ・選手の熱中症対策、お弁当の受取、配布、不足分の買い出し ・試合中に怪我人が出た場合は処置、もしくは病院へ付き添い	
	試合後、MTG・着替え・身の回り片付け	・試合終了後、近くの銭湯を調べて予約	試合後、宿泊先からお風呂が借りられなくて、汗をかいたまま飛行機に乗りたくないと思っていたら、銭湯を探してくれて、そこまで荷物も運んでくれてよかった。最終便で翌日も学校だったので、家に帰ってすぐ寝ることができた
	移動　※貸切バスで移動	・レンタカーを使って荷物の運搬	
	福岡空港　到着、各自夕食・搭乗手続き		
	那覇空港　到着、解団式、解散	解散	

© 2023 CoAr

3. 調査結果
3－1.子どもたちのストーリー

小学校中学年、ミニバスケの一例

日程	選手の動き	帯同者の役割	選手の気持ち
大会前々日 8/25	那覇空港集合（選手：結団式、搭乗手続き）	・選手の体調確認	
	福岡空港　到着	※空港に到着後、二手に分かれる	次にやることを教えてくれたり、時間の管理をしてくれるので、とても助かる。素早く行動できる。
	昼食、貸切バスで移動	※ホテル到着後、複数のグループに分かれる	
	ホテル（長崎県）到着	・選手の部屋割り案内	
	練習	・大会期間中の飲み物等の買い出し（レンタカーで移動） ・翌日分の選手、指導者、保護者のお弁当発注、氷、飲み物等買い出し ・練習のサポート、緊急な対応に備えて待機	自分たちの身の回りのことをやってくれてとても助かる。感謝している。
	ホテル到着	・選手の練習着等の洗濯物を回収、コインランドリーで洗濯乾燥	
	お風呂、夕食、MTG、自由時間 就寝	・クーラーボックス、水筒、アイシング等を洗い	
大会前日 8/26	ラジオ体操、走り込み	※複数のグループに分かれ、それぞれ対応	
	朝食	・選手起こし、体調確認、周囲等の安全管理	
	ホテル出発	・前日の洗濯物を選手に配布、選手の水筒、キーパーの準備	
	練習	・練習のサポート、緊急な対応に備えて待機	練習で怪我をしたり、熱中症になった時にすぐ対応してくれるので、とても心強い、感謝している。
	試合会場で開会式参加		
	交歓交流会		
	ホテル到着	・選手の練習着等の洗濯物を回収、コインランドリーで洗濯乾燥	
	お風呂、夕食、MTG、自由時間 就寝	・クーラーボックス、水筒、アイシング等を洗い	
大会当日 8/27～8/29	ラジオ体操、走り込み	※複数のグループに分かれ、それぞれ対応	
	朝食	・選手起こし、体調確認、周囲等の安全管理	
	ホテル出発	・前日の洗濯物を選手に配布、選手の水筒、キーパーの準備	
	ウォーミングアップ	※複数のグループに分かれ、それぞれ対応	
	試合 昼食、試合観戦、練習 試合後、MTG・着替え・身の回り片付け	・チーム旗の設置、応援、写真撮影、動画撮影 ・試合中に怪我人が出た場合は処置、もしくは病院へ付き添い ・選手の熱中症対策、お弁当の受取、配布、不足分の買い出し ・翌日分のお弁当発注	・初めて行く試合会場でどうすればいいのかわからない時、部旗の設置場所や待機場所から会場へ入る時の通りの確認などを教えてくれたり、時間の管理もしてくれるので助かる。 ・試合中、全力で応援してくれたり、選手を支えてくれているので、全力で試合に挑むことができた。
	ホテル到着		
	お風呂、夕食、MTG、自由時間 就寝	・選手の練習着、洗濯物を回収後、コインランドリーで洗濯乾燥、・選手の水筒洗い	
8/30	ラジオ体操	・チェックアウト手続き	
	朝食		
	ホテル（長崎県）出発	・道具類、荷物類を貸切バスに積み込み、チェックアウト手続き ※複数のグループに分かれ、それぞれ対応	ホテルのチェックアウト手続きや道具類の管理、選手たちの見守りなどをやってくれいるのでとても感謝している
	自由時間		
	移動		
	福岡空港　到着	・道具、荷物預け、搭乗手続き	
	那覇空港　到着（選手：解団式、解散）	解散	

© 2023 CoAr

3. 調査結果
3－1.子どもたちのストーリー

中学校、空手の一例

日程	選手の動き	帯同者の役割	選手の気持ち
大会前々日 8/5	那覇空港集合（結団式、搭乗手続き、道具・荷物預け）	・選手の体調確認	保護者がいる前提（今回は別便の為）であれば、体調管理をしてくれる。バスで長時間移動のため、乗り物酔いしやすいので、保護者がいると安心する
	福岡空港　到着	・荷物運びだし	
	貸切バスにて移動	・長距離移動のため、選手の体調確認	
	ホテル（長崎県）到着	・荷物運び入れ	
	県選手団練習	・自主練のサポート、安全管理、見守り（怪我の処置、もしくは病院へ付き添い）	
	ホテル	・練習着等洗濯（ホテル内） 選手と別便、到着21：00過ぎの為、サポートできず（同便だと、上記の事がサポート可能）	
大会前日 8/6	朝食		・保護者がいると安心できる。
	練習会場（午前中）	・体調確認、選手の飲み物、軽食の買い出し	・必要な物の買い物、動画の撮影がお願いでき練習に集中できる
	県選手団練習	・練習動画撮影（明日の試合に向けて、最終調整をしてもらう）	・動画を見ながら、翌日のイメトレができた
	ホテル　到着 昼食後自主練習 就寝	・自主練のサポート、安全管理、見守り（怪我の処置、もしくは病院へ付き添い） ・練習着等の洗濯（ホテル内）、ほつれたゼッケンの縫い付け	・午後の自主練についてきてくれ、安心できた ・洗濯をしてくれるので、その分体を休ますことができる。
大会当日 8/7	朝食	・選手体調確認	・起床時間の心配がない（起こしてくれる） ・保護者が応援に来ていると、緊張がほぐれる ・体調管理をしてくれるので安心感
	ホテル　出発	・緊張しないようにサポートできる	
	会場到着、ウォーミングアップ	・ウォーミングアップの手伝い	
	試合	・試合動画撮影（子どもの試合だけでなく、他校の選手等、試合動画を撮影できた） ・選手のお弁当受取り、軽食、飲み物等買い出し ・試合中に怪我した場合は処置、もしくは病院へ付き添い （監督（先生）は、親がいる事で、選手の試合に集中できる） ・一人でも多くの応援がいる事で、選手のモチベーションアップにつながる	・飲み物等、好きな物をわかっているので、伝えなくても買ってきてくれた ・試合動画を撮影してもらい、今後の対策になった ・試合に集中できた ・道着の洗濯をお願いできた
	ホテル　到着 お風呂、夕食、自由時間、就寝	・空手着、練習着等の洗濯（ホテル内）	
大会当日・ 帰沖 8/8	朝食	・体調確認	・起床時間の心配がない（起こしてくれる）
	ホテル　出発		
	会場到着		
	会場出発		
	貸切バスにて移動	・飛行機チェックインの手伝い ・お土産の買い物サポート（部活動・道場）	・長距離移動の為、一緒にいてくれるだけで、体調面も安心できる ・飛行機のチェックインが安心 ・お土産の買い物を手伝ってくれた
	福岡空港　到着　自由時間		
	那覇空港　到着、解団式、解散		

© 2023 CoAr

3. 調査結果
3－1.子どもたちのストーリー

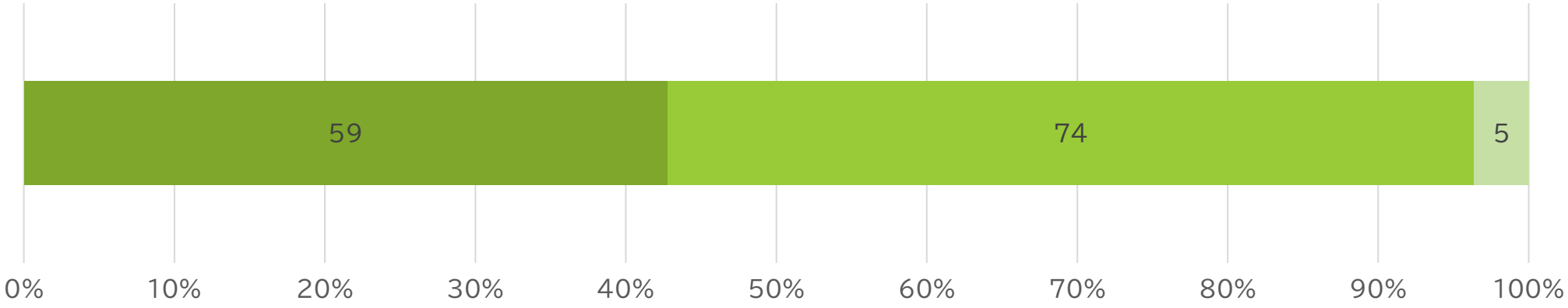
小学校高学年、テニスの一例

日程	選手の動き	帯同者の役割	選手の気持ち
大会前日 7/6	那覇空港	・道具類の荷物預け、搭乗手続き	飛行機に乗るための手続きは自分一人だと不安だけど、お母さんが教えてくれるので助かる
	鹿児島空港　到着	・道具類、荷物受け取り、空港内レンタカー会社からレンタカー手続き	
	昼食、レンタカーで移動	・空港から練習会場までレンタカー運転	県外の空港に着いたあと、レンタカーで移動する時にお母さんと大会の話をすると緊張が和らぐ
	練習会場へ 練習相手を自分で声かけ	・練習会場借用手続き ・選手の熱中症対策、氷、飲み物等買い出し	初めて行く場所でお母さんがいてくれるので、飲み物や軽食など準備してくれる
		・チェックイン手続き、道具類、荷物運びだし	
	ホテル　到着	・選手の練習着の洗濯（ホテル内）	夏の時期は何着も着替えるので、洗濯物が多い。お母さんが手伝ってくれるので、助かる
	お風呂、夕食、明日の準備、自由時間、就寝		
	朝練	・体調確認、練習会場送迎、朝練のため練習会場借用手続き	
大会当日 7/7～7/9	朝食	・朝練をすると宿泊先の軽食時間に間に合わないので朝食、飲み物等の買い出し	
	ホテル　出発		
	練習会場到着、ウォーミングアップ＋練習 試合会場へ	・試合会場　送迎 ・選手の熱中症対策、氷、飲み物、お弁当等買い出し ・試合中に怪我した場合は処置、もしくは病院へ付き添い ・試合の勝敗により復路航空券、宿泊、レンタカーの日程変更をそれぞれに連絡	・お母さんがいることで自分一人ではできないところをやってくれているので、安心して大会期間を過ごすことができる
	試合（ダブルス）	・練習会場の借用手続き ・選手の熱中症対策、氷、飲み物等買い出し	応援してくれるので勝ちたいと思う
	ホテル　到着		
	お風呂、夕食、翌日の道具・ユニフォーム準備、就寝	・選手の練習着の洗濯（ホテル内）	
最終日 7/10	朝食	・体調確認、ホテル支払い	
	ホテル　出発	・道具類を車に積み込み、レンタカー運転	
	試合会場へ（残り試合観戦）	・レンタカー返却手続き、精算	また県外の大会に来れるように練習がんばろうと思う
	鹿児島空港　到着	・道具類を荷物預け、搭乗手続き	
	那覇空港　到着、帰宅	・道具類、荷物受け取り	

© 2023 CoAr

3. 調査詳細
3-2.アンケート結果ー全体の傾向

- 児童・生徒のみでは送り出せない、児童・生徒のみでも行けるが、不安があるの割合で95%以上を占める結果となった



必須
大人がいないと、派遣に行けない
（児童・生徒のみでは送り出せない）

質の担保
大人がいると現地での移動や洗濯など、派遣に安心感がある
（児童・生徒のみでも行けるが、不安がある）

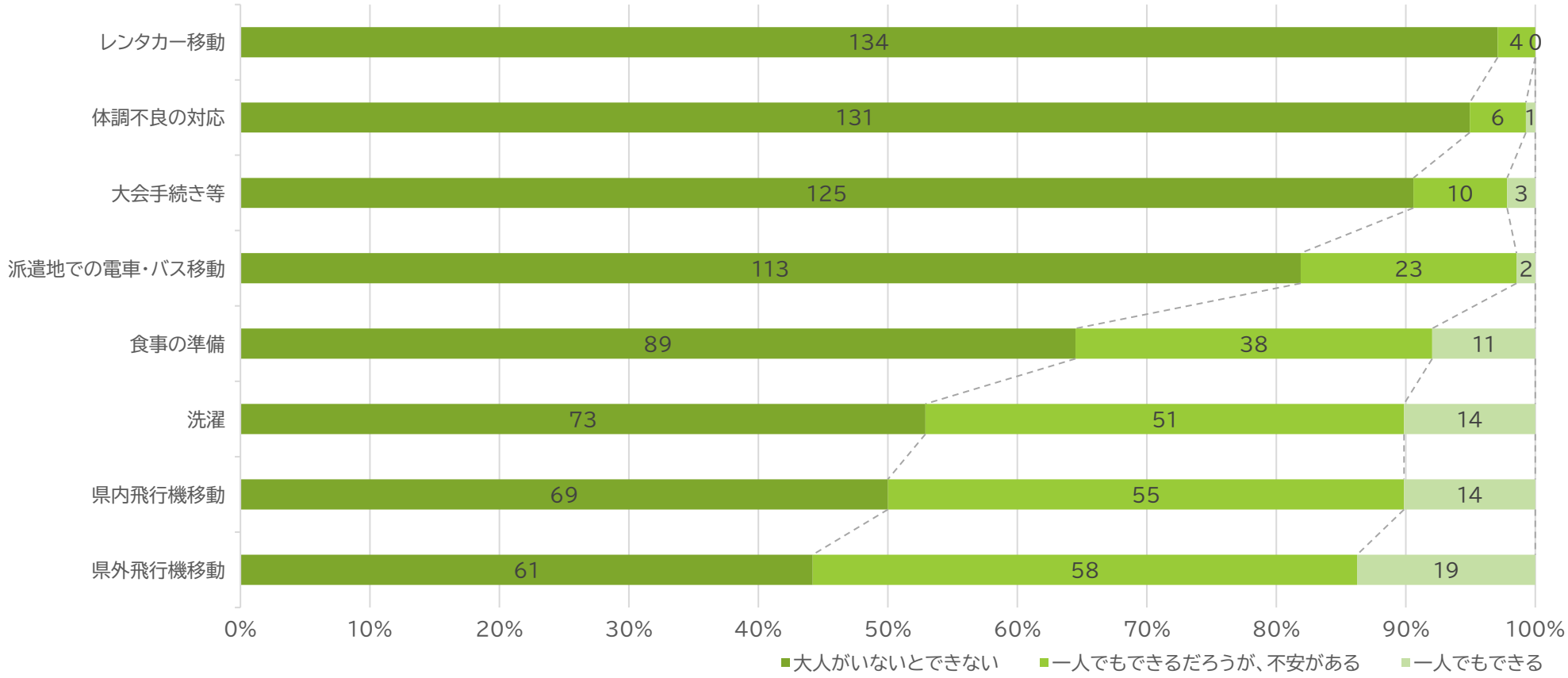
質の向上
大人がいると、応援者が増えるなど、派遣の質が上がる
（児童・生徒のみでも問題なく行くことはできる）

N=139

© 2023 CoAr

3. 調査詳細
3-2.アンケート結果ー全体の傾向

- 子どもだけで難しい事柄として、特に車移動、体調不良等への対応、**大会参加に必須と言える大会手続きには90%以上が「帯同者が必須」と回答**している
- その他の項目についても、一人でもできるが不安がある、の割合が約9割程度となっている

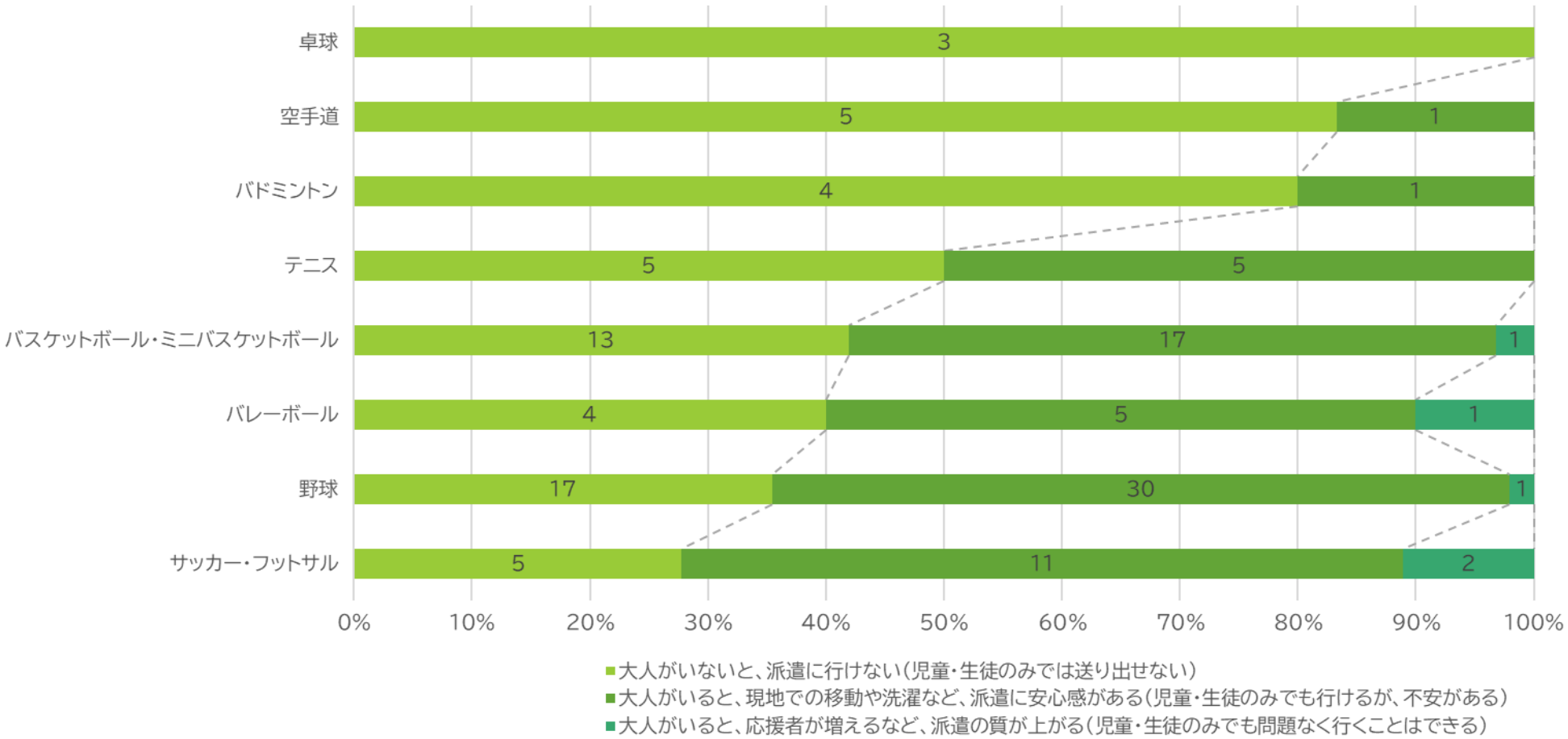


N=139。レンタカー移動の「一人でもできるだろうが、不安」の4回答は野球での派遣の回答で大人数での移動だから可能、という理解での回答だと解釈できる

© 2023 CoAr

3. 調査詳細
3-2.アンケート結果ー競技別の傾向

- どの競技種目においても、児童・生徒のみでは送り出せない、児童・生徒のみでも行けるが不安があるの回答までで約9割以上となった

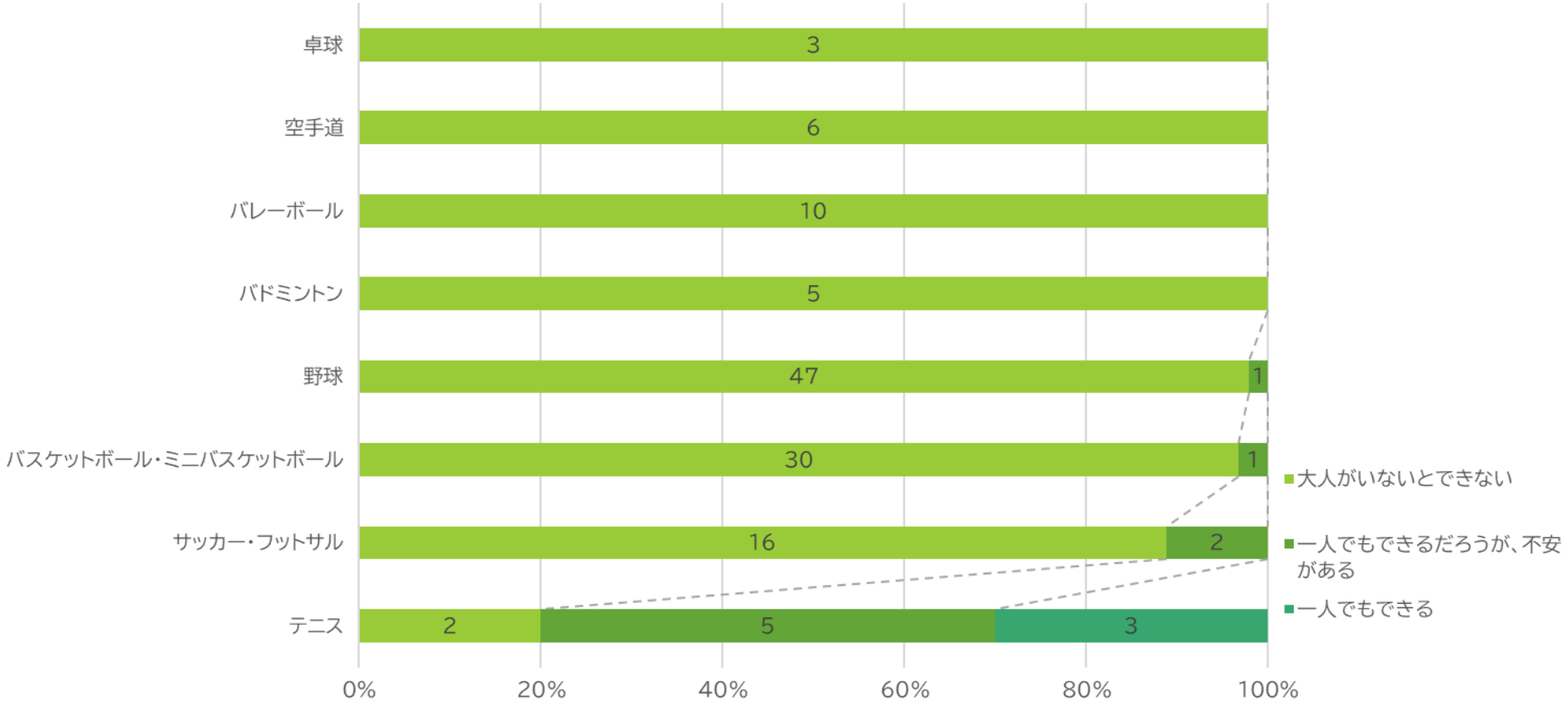


※全回答138の内、三人未満の参加者であった競技種目（アイスホッケー、ハンドボール、ビーチバレー、水泳、体操、剣道の7回答を除く

© 2023 CoAr

3. 調査詳細
3-2.アンケート結果ー競技別の傾向

- どの競技種目においても、**大会登録手続きについて**は、大人がいないとできないの回答が、9割以上となった
- テニスだけが「一人でもできるだろうが、不安がある」という回答、「一人でもできる」という回答が2割以上あるが、それらはいずれも中学生の学年が含まれており、また、大会経験者でもある

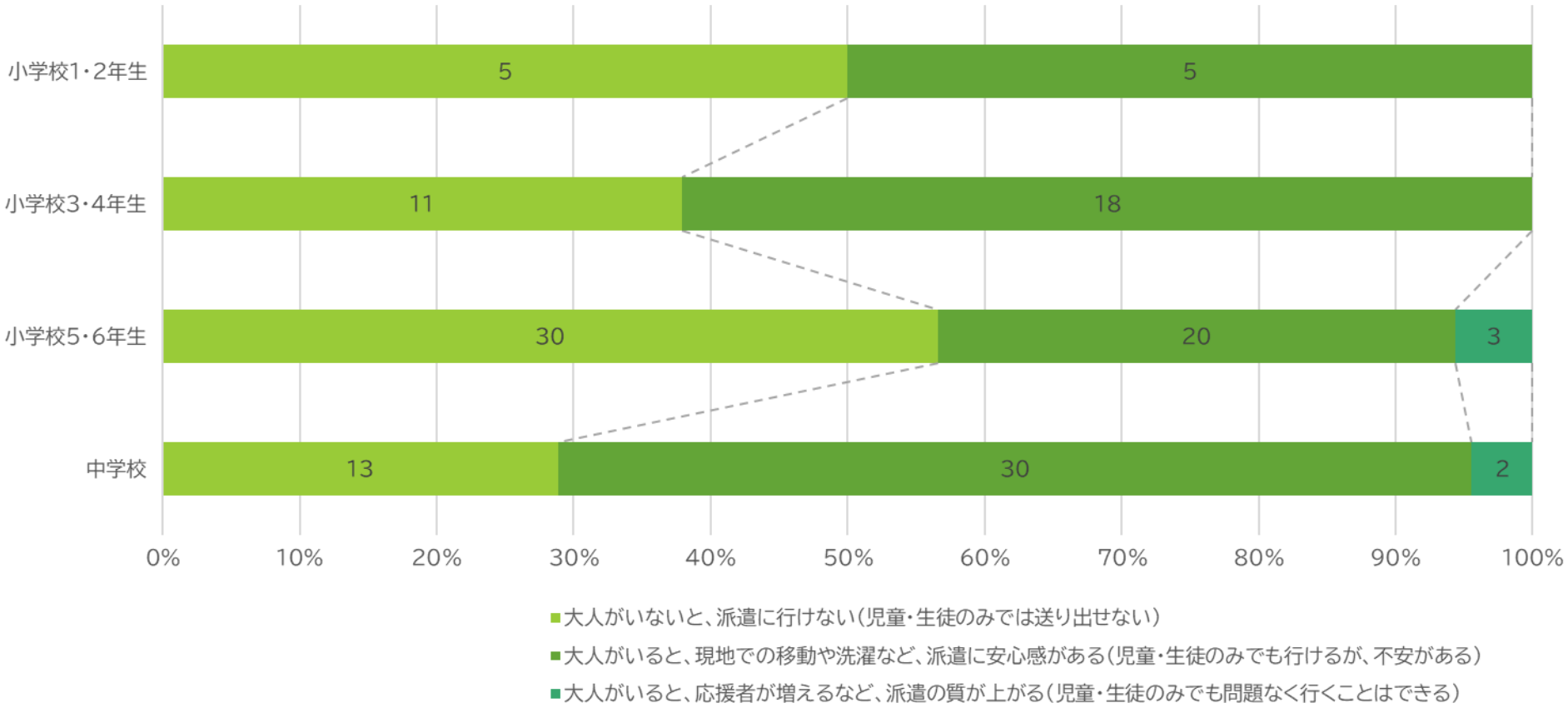


※全回答138の内、三人未満の参加者であった競技種目（アイスホッケー、ハンドボール、ビーチバレー、水泳、体操、剣道の7回答を除く

© 2023 CoAr

3. 調査詳細
3-2.アンケート結果ー年齢別の傾向

- どの年齢においても、児童・生徒のみでは送り出せない、児童・生徒のみでも行けるが不安があるの回答までで約9割以上となった
- 特に小学校1・2年生、3・4年生においては、一人で行けると答えた回答者はいなかった

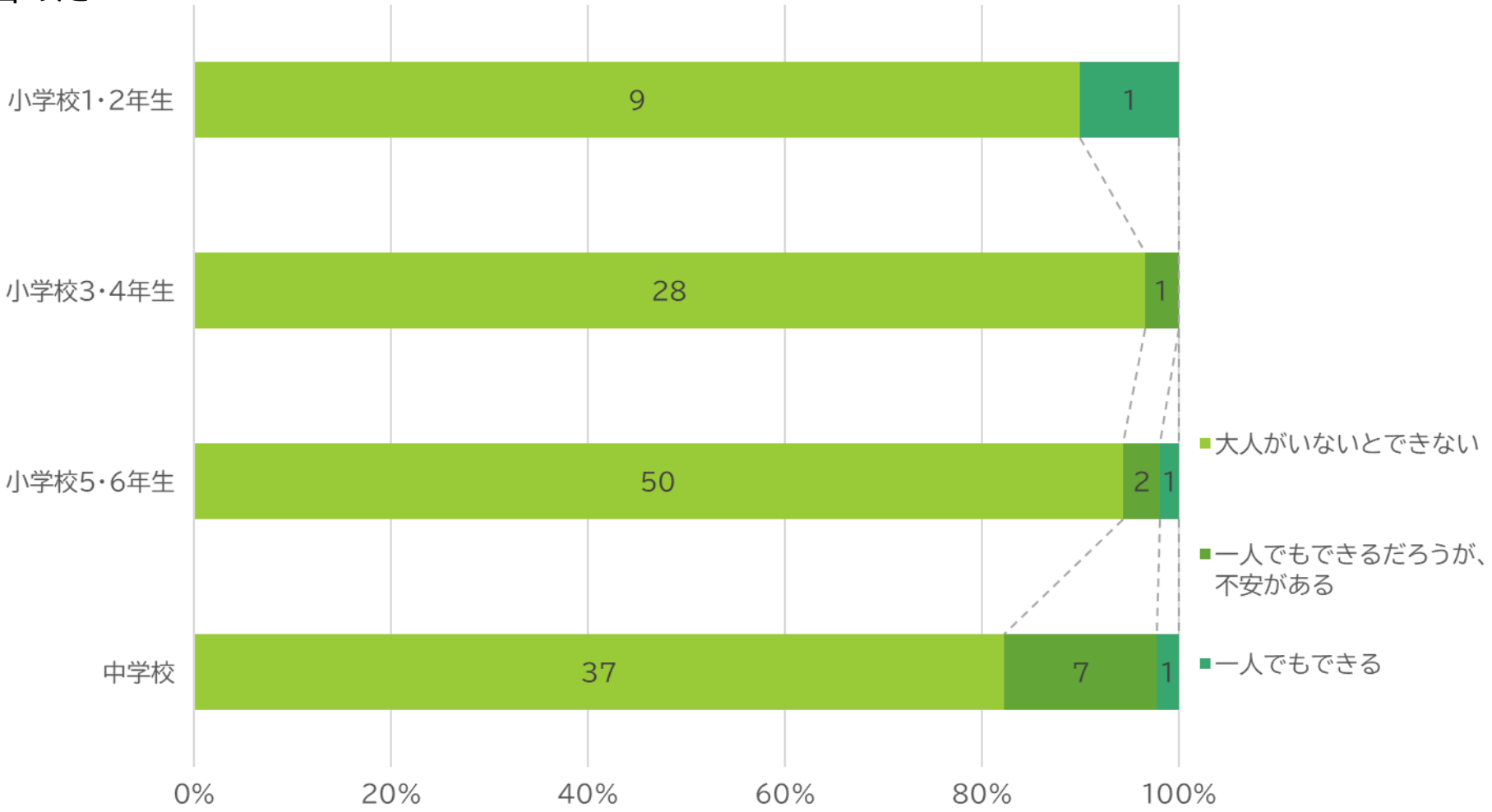


N=139

© 2023 CoAr

3. 調査詳細
3-2.アンケート結果ー年齢別の傾向

- 特に重要な項目である**大会の登録手続き**に関して、学年に関わらず、子供だけでは難しいという回答が8割以上を占めた



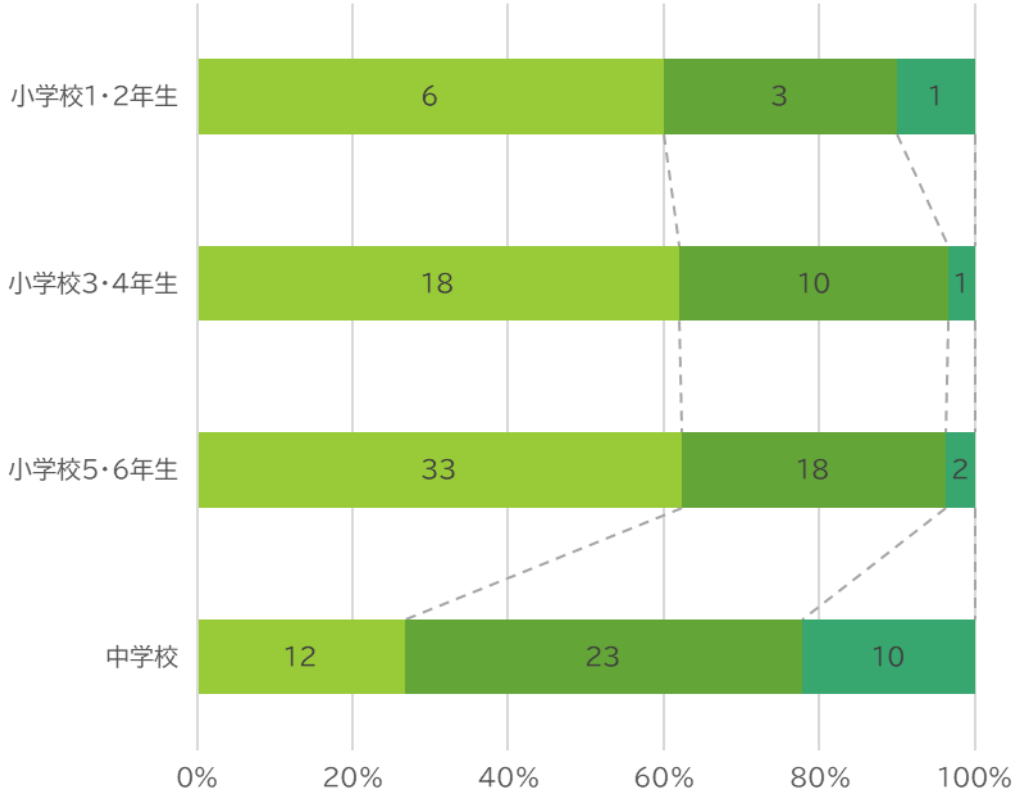
N=139

© 2023 CoAr

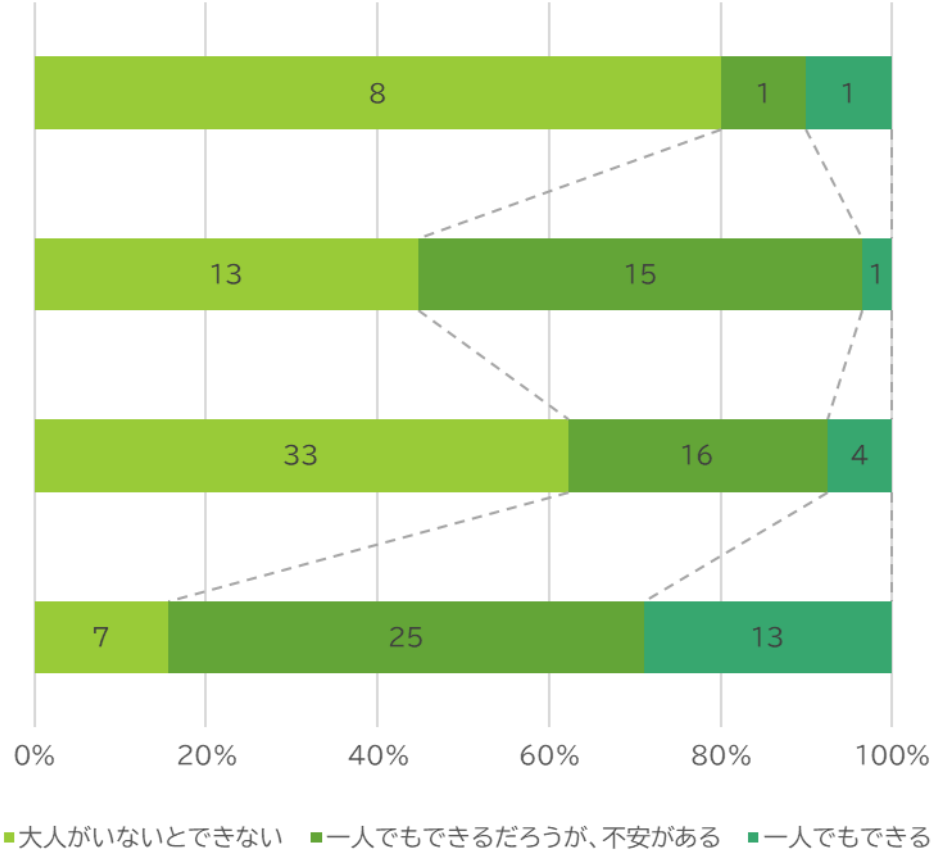
3. 調査詳細
3-2.アンケート結果ー年齢別の傾向

- 県内の飛行機移動については、小学生は6割程度が大人がいないとできない、という回答
- 県外への飛行機移動についても、小学生は平均して7割程度が大人がいないとできない、という回答

県内の飛行機移動



県外への飛行機移動

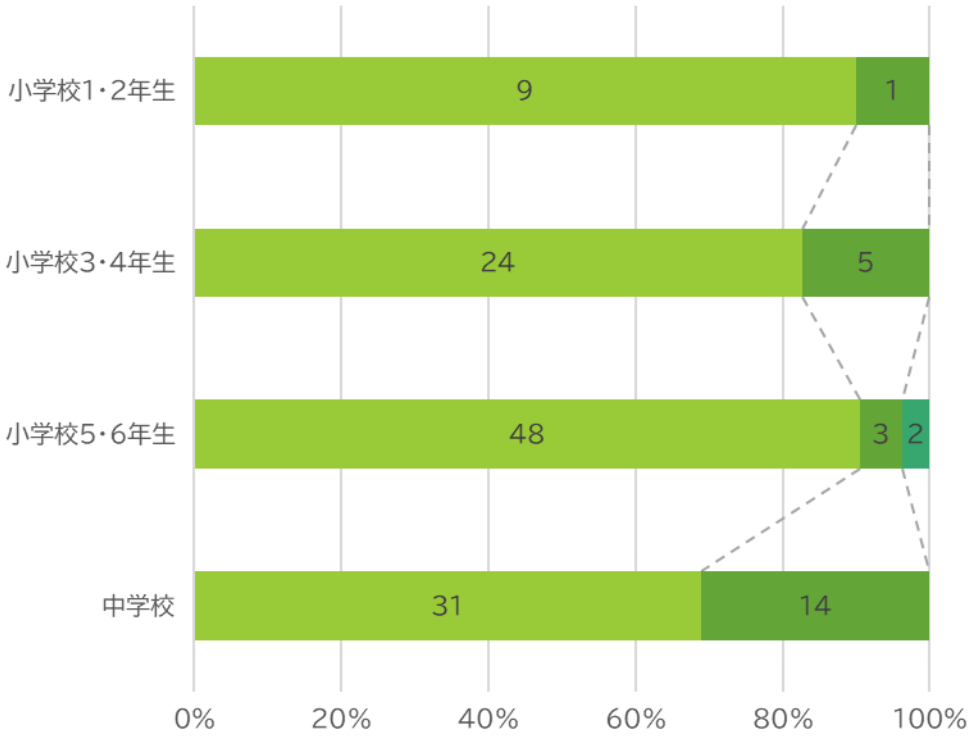


© 2023 CoAr

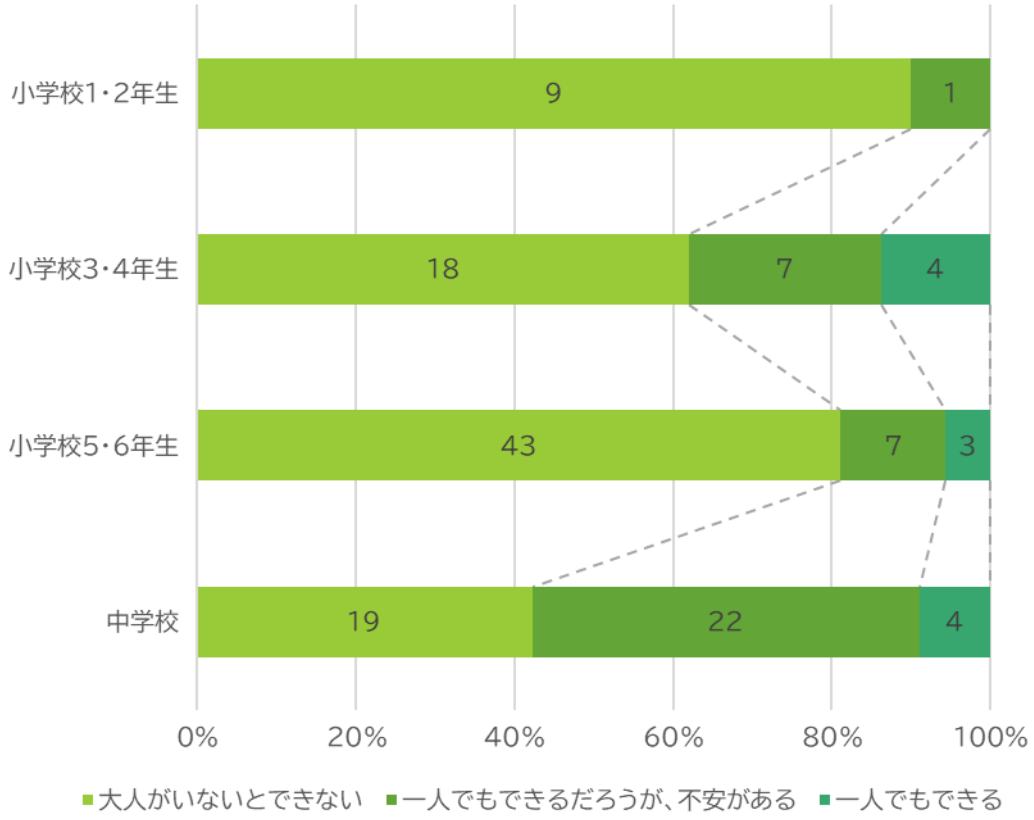
3. 調査詳細
3-2.アンケート結果ー年齢別の傾向

- 派遣地での移動や、食事の準備についても同様の傾向が見られたが、特に派遣地での移動では、中学校でも7割程度が大人がいないとできない、という回答だった

派遣地での移動（公共交通機関等）



食事の準備

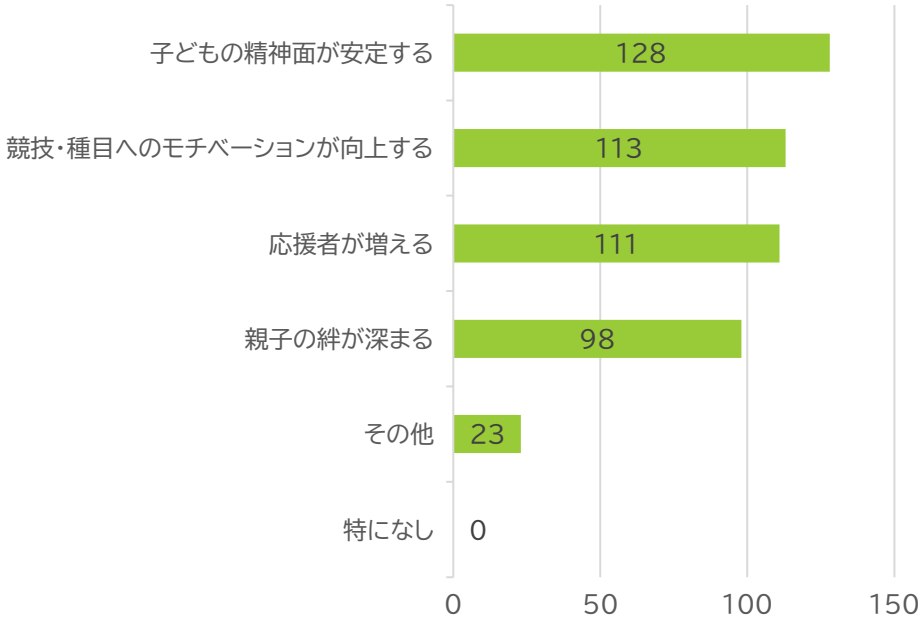


© 2023 CoAr

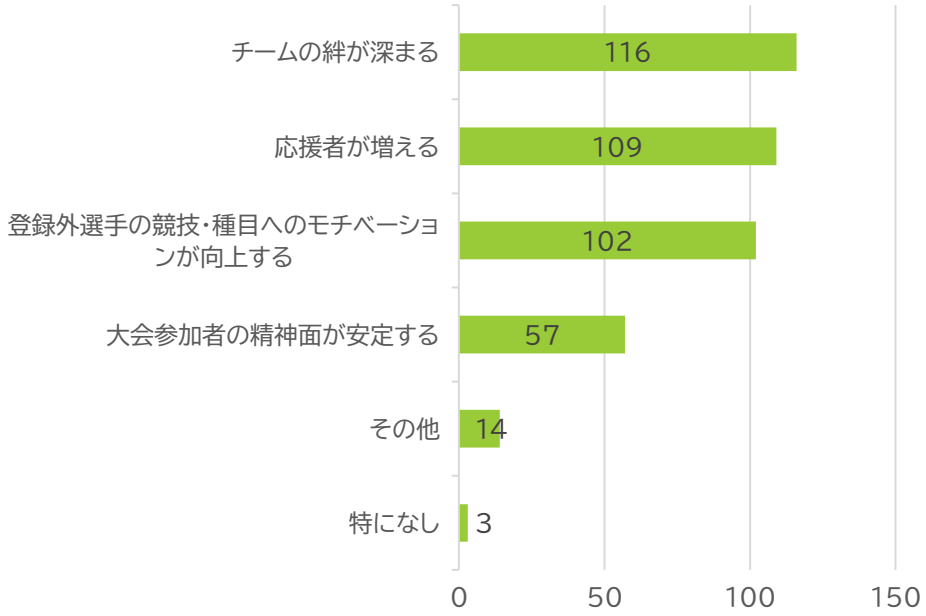
3. 調査詳細
3-2.アンケート結果ー帯同がいるメリット

- P.17までの内容に加え、帯同者がいることで追加的に得られる効能としては、精神面の安定が挙げられ、登録外選手の動向のメリットとしては、チームの絆、応援者、モチベーション向上が挙げられた

大人（指導者や保護者）が同行する場合のメリット



登録外の選手が同行する場合のメリット



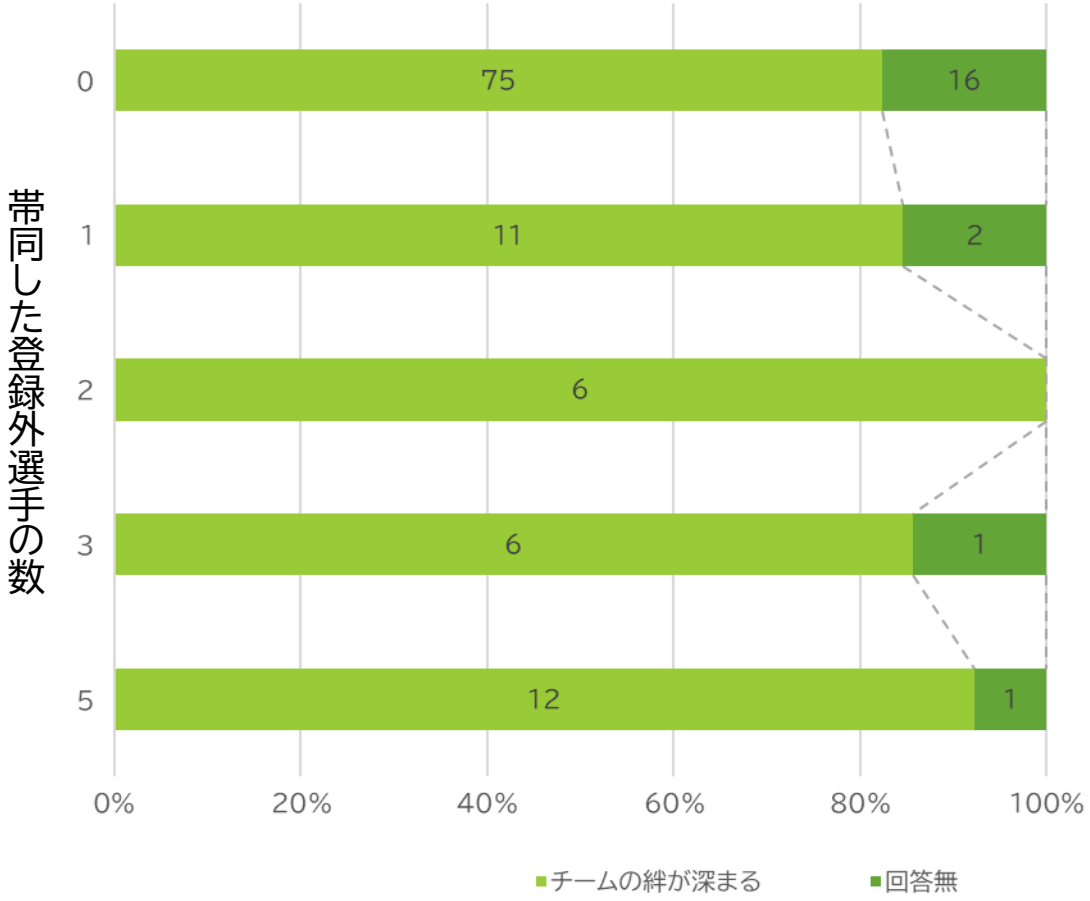
N=139

© 2023 CoAr

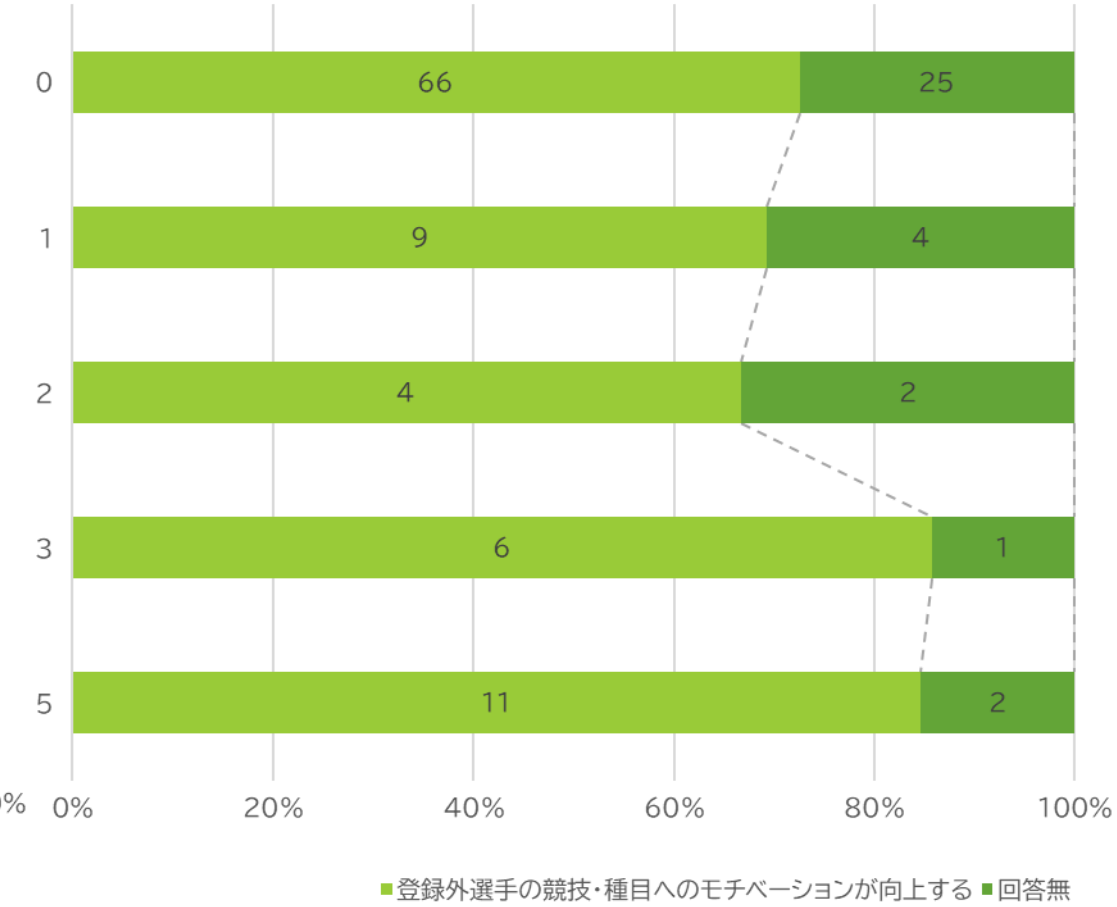
3. 調査詳細
3-2.アンケート結果ー登録外選手のいるメリット

- 登録外選手が同行した人数に関わらず、チームの絆が深まる、モチベーションが向上するといった項目については、全ての項目についてそれぞれ約8割以上、約7割以上が肯定的に回答した

チームの絆が深まる



登録外選手のモチベーションが向上する



© 2023 CoAr

3. 調査詳細
3-2.アンケート結果ー帯同に関わる言葉

- 帯同が必要な理由としての自由記述では、移動に関する言葉が最も多く、次いで、対応や管理、食事、準備等が挙げられた

移動	21
対応	19
管理	14
食事	13
準備	10
場所	10
体調不良	10
宿泊	9
大会	7
必要	6
買い出し	6
トラブル	5
支払い	5

道具	4
コート	4
確保	4
変更	4
着用	4
場合	4

帯同	3
試合中	3
県外	3
体調管理	3
手続き	3
安全	3
調整	3
サポート	3
選手	3
子供	3
起きる	3
行く	3

※簡易テキストマイニングを実施後、言葉をクリーニングして整理

© 2023 CoAr

3. 調査結果
3-2.アンケート結果ー具体的な声

- フリーコメントやインタビュー結果を必須、質の担保、質の向上の観点で分けると下記のようなものが挙げられた

A. 必須 帯同なしでは行けない、できない	・大会（宮古島）では、私たち学校から保護者の参加が少なく、弁当、飲み物等の買い出し、ホテル、空港までの子ども達のサポートを引率の先生だけで行うことは大変で、帯同者の重要・必要性が改めて実感した ・大会期間が長期でユニフォームの洗濯が一番大変でした。夏の大会だと熱中症の危険もありレンタカーを借りて体調不良の選手が出た場合に備えたりした。中学生のチームでも帯同者5名以上は必要だと感じた。 ・全額自己負担となると参加が厳しい家庭がありましたが、補助金を受けることにより参加できた家庭が増え、子ども達の学びの機会に不平等なく「体験」するとこができたと思います。 ・引率で同行する先生もいたが、現地で体調不良となり大会当日の移動も保護者がサポートし、荷物を運んだ。想定外の出来事が起きても、安心して競技に参加できるよう帯同者はある程度必要だと思った。
B. 質の担保 帯同なしでも行ける・できるだろうが、不安があること	・帯同者がいることで、練習のサポートや荷物の運搬、子ども達のユニフォーム洗濯など、それぞれ子どものサポートをすることができた。 ・子ども1人1人の体調管理する係、荷物運搬（大型の道具類）係、氷・氷の買い出し係とそれぞれ役割を分担し、子ども達のサポートをすることができた。 ・県外は沖縄県と気候が変わるものの、炎天下の中試合は厳しい状況があり、昼食時はクールダウンを兼ねて冷えた食べ物が好ましいと考え、宿泊先で冷やして選手に届けたりした ・ユニフォームの洗濯、食事（試合の時のお弁当手配）の他、ホテルでの食事がバイキングだったので、とりわけ方、買い出しなど、3班に分かれて作業をし、父母か多いと助かります。
C. 質の向上 帯同なしでも行けるが、あるとより質が高まること	・身の回りの世話も重要ですが、親がいることで子ども自身が安心し、普段とおりのプレーにつながると思う。 ・コーチ2名で選手28名の体調管理や荷物管理などをするには難しく、保護者ができることは保護者同士で作業を振り分けることができた。 ・保護者が一緒にいることでスムーズな移動、会場受付など事務的な安心感や子どものモチベーション、メンタル強化に繋がったと思います。何も心配することなく試合に挑める。 ・（登録外選手のコメント）プレーすることができなかったが、県外の選手を外から見てて、ダイレクトプレー、シュートの正確さがとてもわかった。

© 2023 CoAr

参考）新規アンケートの項目

基本的な属性に加えて、以下の質問項目に回答いただきました

2-1. 派遣補助を受けた年度すべてにチェックを入れてください

2-2. 派遣補助を受けた際の児童・生徒の年齢について教えてください（複数の児童・生徒がいる場合には、あてはまるもの全てチェックし）※補助を受けた当時の児童・生徒の区分でチェックしてください。

2-3. 競技種目を教えてください

3-1. 派遣補助を受けた大会で、一緒に行った**選手**の人数について教えてください

3-2. 派遣補助を受けた大会で、一緒に行った**登録外選手**の人数について教えてください

4-1. 派遣補助を受けた大会で、一緒に行った**指導者（顧問・コーチ等）**の人数について教えてください

4-2. 派遣補助を受けた大会で、一緒に行った**保護者**の人数について教えてください

5. 大人の同行者がいる場合、いない場合では、派遣の時に、どのようなちがいがありますか。当てはまるもの一つを選んでください。

6. 次の各項目について、児童・生徒が一人でもできること、できないことに当てはまるものを選んでください

7. その他に、大会派遣において子ども一人ではできないことがあれば、教えてください

8. 大人（指導者や保護者）が同行する場合、どのようなメリットがあると思いますか。当てはまるもの全てにチェックをしてください。

9. 登録外の選手が同行する場合、どのようなメリットがあると思いますか。当てはまるもの全てにチェックをしてください。

© 2023 CoAr